

# 愚考考古学

④

「河内」とは何か

中 林 幸 夫

(会員・佐伯市長島町)

この近辺の地図を見るだけでも、河内（川内等を含む）がつく地名は多く、九州全域では、河内の地名は驚く程ある。河内の他にも同一地名はあるが、河内に匹敵するものはない。

私は、この河内の地名を研究することによって、日本の古代国家形成の過程が解明できるのではないかと思っている。

古代国家を語ろうとすれば、遺跡から出土する鏡等が造られた頃にさかのぼらなければならぬ。そして、その鏡に記入されている中国の年号の景初三年（二三九）等を国家成立の時代と考えようとすれば、中国の古書「魏志倭人伝」にふれぬわけにはいかない。倭人伝には、当時の日本の模様が記載されており、ヒミコの支配するヤマトイ国をはじめ三十国があったとされている。

倭人伝の冒頭の項に

倭人在帶方東南大海之中、依山島為国邑、旧百余国、漢時有朝見者、今使訳所通三十国

(訳文)

倭人は帯方の東南の大海の中に在り、山島に依りて国邑くにむらを為す。旧百余国もと、漢の時に朝見する者あり、今使訳通ずる所、三十国。

とある。

ヒミコやヤマトイ国は、学者等によって長年論争されているが、未だに九州にあったか畿内にあったかさえ、決定的な結論が出ていない。

そこで問題としたいのは、三十国に統一された以前にあった「旧百余国」のことである。多分、国邑くにむらとあるように旧百余国は、国というより邑むらであったと思われる。

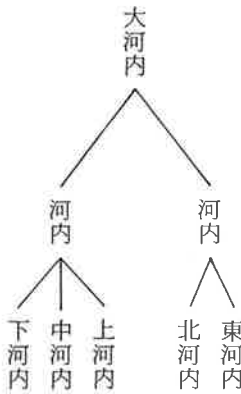
この近辺の地図（参考図）の河内名を結ぶと、二つの邑があったように思われる。このような河内名で形成された地域を全国について調べると、

九州 七十八邑 四国 十七邑 本州 十一邑  
計 百六邑

となり、これが旧百余国ではないかと私は思うのだが：そして、この河内の分布が畿内以西に片寄っていることを知ると、一世紀頃の日本に住んでいた河内族は、畿内以西を生活圏としていた民族のようにも思われる（現代地図で調査したため、これ以外にも存在したものと思われる）。

河内名を分析していくと、河内の集合したものに大河内がある。

(例)



例の如く、河内は分家的に範囲を広げて行き、また、

集合したとも見える。そこで河内名の上につく名前を調べてみると、

一 家族分家・階級組織による 大河内・小河内等  
二 地形等の特徴を名付けた 岩・山・野・谷・滝・岸河内等

三 河内を中心とした方位による 東・西・南・北河内  
上・下・前・後河内等

四 特産物を名付けた 藤・栗・梨河内等

五 所在の存在物を名付けた 宮・別所河内等

がある。この名前を見ると、大・小河内等は古く宮・別所等は言葉の発生から時代的に幾分後のように見える。とにかく、多角的に分析調査を進めると、カワチ（カウチ）は古代人の住んでいた所ということになる。

言葉は人口の増加によって発達し、少しずつ増えていく。一例を挙げれば、大河内・小河内の大・小だが、

大河内・小河内の「おお」は、数の発達したもので、古代人は数を一から五までを指で数え、それ以上は「お」「おお」「おー」で数えている。だから「お」は「五」のことであり、中国語で「ウオ」、朝鮮語で「オ」と発音し、

「お」

(五のこと)

「おお」

おお 小お  
大 (十のこと)

「おー」

多 (十以上の表現)

となつてゐる。この例で見る限り、小河内の後に大河内が出来たことを問題にする人はいないだろう。

あまり長くなるので結論を書くが、「カワチ・カウチ・ゴオチ」等で発音されている地名は、全国の分布状況等からみて、南方または中国方面から渡来した民族によつて名付けられ、東へ東へと波及したのではないだろうか。なぜ、南方系かというと、

ベトナム語のハノイ(現在ベトナムの首都)

朝鮮語の 𨸗 𨸗

(漢字で河内)

日本語の 河内 (カウチ)

とつながりがあり、日本古代の邑の意味を持っているからである。これら南方系民族の移住の最終地が「河内国」(近畿地方)であり、それより少し遅れて渡来して来た朝鮮民族が、朝鮮語の 𨸗 𨸗 (朝鮮語のくに) を奈良の地名にしているからである。旧百余国の年代は、「漢の時」

となつてゐることから西歴五十七年頃と言われている。つまり、一世紀から三世紀にかけて日本国家は成立しており、一世紀またはそれ以前から河内は存在していたこととなり、その当時からそこに人間が住んでいたことになる。

先に河内名で形成された地域は全国で百六邑と集計し旧百余国としたが、河内・大河内を一つの国邑とみなして数えると、九州に大河内十九、河内六十三、四国に大河内五、河内十七、本州に大河内十五、河内五十五となり、合せて大河内三十九、河内百三十五が存在する。

倭人伝の編纂時、旧百余国に関しては相当な確証のある資料を収集していて、それを基に記載されたであろうから、百余国は百以上あったことは間違いないが、倭国は発展の途上にあつたため、正確には把握できなかったと思われる。

河内とは古代人の住んでいた所で、大河内には支配者がいたような形跡があり、古墳が発掘されている。この近辺で一番近い大河内は佐賀関町にある。現代でも地方によつては自分のことや家のことを「ウチ」と言っていることから、「カウチ」の語源もその辺にありそうな気

がする。

私は、この河内の研究こそ、稲作文化圏と古代国家成立への過程を解く鍵と考えている。しかし、河内が広範

囲に点在するため、地域々々の史談会等で、地域の河内の解明を進めなければ、既に消滅している地名もあり、将来、困難な作業になると思う。

